

平成26年10月15日

No. 17

# 日立理科クラブ通信



日立理科クラブ

## 授業支援・楡形小学校

### 6年理科「月の形とその変化」

10月9日(木)、楡形小学校で実施した授業支援を紹介します。今回の授業支援は、6年生の「月と太陽(月の形とその変化)」についてです。体育館全体を使って、地球・月・太陽のモデルを並べました。バスケットコートのセンターサークルには、地球のモデルとして運動会で使う玉転がしの大玉、月はドッジボール(半分黒と黄色で色分け)8個を、太陽はステージ上に設置しました。そして、児童たちは、地球上の目線で実際に太陽の位置と月の位置を確認し、月の満ち欠けの様子をワークシートに記録していきました。新月・三日月・上弦の月・満月・下弦の月・新月と約1ヶ月で一回りする様子を、日立理科クラブ支援員が、月のモデルのボールを持って回りながら、新月から三日目の月が三日月になること、三日月が見えるのは太陽の近くであることから、太陽が沈む西の空に見えることなどを一つ一つ、丁寧に説明を加えていきました。



児童たちは、「月の形が日時によって変わるのは、月と太陽の位置関係が変わることであること、また、月の見える位置の変化は地球が回っているからであること。」などを、体育館の中で体感で学習しました。日食の仕組みや、10月8日の皆既月食の仕

組みが月・地球・太陽の並びで地球の影が月に表れる現象であることなどの話に、真剣に耳を傾けて聞いていました。昨日の実際の天体ショーを見ている児童が多く印象も強いたためか、月の満ち欠けの現象などにかなり興味を示しながら、授業にとっても集中している様子がうかがえました。

与謝蕪村「菜の花や月は東に日は西に」という俳句を紹介し、このときの月の形を児童たちに質問をしました。「日は西にということから時間は夕方、東の空に月が見えるということは、月の形は満月になりますね。」という話に、なるほどとうなずく児童が多く見られました。児童たちは、半月(上弦の月、下弦の月)でも明け方や夕方に見える場合の位置関係や、右半分輝いて見えるのか左半分輝いて見えるのかなどを、ワークシートに書き込んで確かめることができていました。地球の中心から見た月の形と太陽の位置をしっかりと確認してとらえることが本日の学習課題です。

授業が終わって体育館を出て行く児童に、授業の感想をうかがうと、「三日月という名前の由来が分かっておもしろかった。」「大がかりな装置があって、月の満ち欠けがよくわかった。」という、授業に満足している答えが返ってきました。



文責 日立理科クラブ 特別会員 岩波 英一  
日立理科クラブ事務所 TEL/FAX 0294-24-3104